

IV 救 急 編

1 救急活動概況

当市は昭和39年7月の救急業務開始以来、社会経済活動の進展に伴い年々その体制が整備され、現在9救急隊（うち、1隊は白糠町消防事務委託）を運用し、市民の生命・身体を守る上で必要不可欠な行政サービスとして定着している。

そのような中、救急救命士制度の導入や救急隊員の行う応急処置等の範囲の拡大に伴い、全救急隊に高規格救急車の導入および救急隊員の教育訓練体制の整備を図るなど、救急業務の高度化の拡充に取り組んでいるところである。また、令和3年度からは「指導救命士を中心とした教育体制」の運用を開始。本部研修と連携した効果的な教育体制を確立し、救急隊全体のさらなるレベルアップを図っている。

今後は、関係機関との連携を強化するとともに、市民に対する応急手当の普及啓発活動を推進し、より一層の救命効果の向上を目指す。

また、令和6年4月から高齢化の進展等によりさらなる増加が見込まれる救急需要に対応するため、平日の日中時間帯に運用する「レタラ救急隊」を創設した。

「レタラ救急隊」は、祝日・年末年始を除く毎週月曜日から金曜日の8時50分から17時20分までを運用時間とし、釧路市の中心で全体を把握できる立地にある釧路市中央消防署を拠点に救急要請に対応している。

運用効果としては、レタラ救急隊の運用時間帯における救急車の現場到着時間が短縮され、これによる救命効果の向上を期待している。

- ① 救急救命士の育成・・・有資格者数80人
- ② 市民による応急手当普及啓発活動の推進
「応急手当の普及啓発活動の推進に関する要綱」（H19.10.11施行）
- ③ メディカルコントロール体制の構築
釧路・根室圏メディカルコントロール協議会の設立（H15.3.26）
- ④ 医師による包括的指示下での除細動の実施（H15.8.1開始）
- ⑤ 気管挿管可能な救急救命士4名を養成し、高度な救急救命処置が行える体制を整備（H18.8.1開始）
- ⑥ ビデオ硬性喉頭鏡による気管挿管可能な救急救命士4名を養成し、高度な救急救命処置が行える体制を整備（H27.12.17開始）
- ⑦ 一般市民が行うAEDを用いた心肺蘇生法の普及に努め、救命効果の向上を図った。
- ⑧ 救急需要抑制対策として、SNSを使用した広報、市のホームページ、マスメディア等を活用し、救急車の適正利用をPRした。
- ⑨ 救急現場において、勇気を出して応急手当を実施していただいた方に対し、「救命の勇者カード」を進呈する事業を開始（R5.9.9開始）

2 救急に関する主な統計

令和6年の救急出動件数は11,366件、搬送人員10,414人で、前年に比べ出動件数においては205件（1.8％）の減少、搬送人員においては51人（0.5％）増加した。また、1日の平均出動件数が31.1件で、管轄区域内の住民15.5人に1人が救急車を利用したことになる。

出動状況等、その他救急に関するデータについては表1から10のとおりである。

表1 年次別救急出動状況の推移（過去5ヵ年）

年 別 区分	S 39 年	R 2 年	R 3 年	R 4 年	R 5 年	R 6 年
出動件数	145	9,403 (490)	10,346 (552)	10,950 (454)	11,571 (554)	11,366 (541)
搬送人員	119	8,576 (450)	9,411 (459)	9,962 (405)	10,363 (514)	10,414 (505)
1日平均件数	0.4	25.7	28.3	30.0	31.7	31.1

※ 昭和39年は7月から業務開始。

※ （ ）内は白糠支署の出動件数及び搬送人員。

表2 事故種別救急出動件数の全件数に対する割合

種別 区分	火災	自然 災害	水難	交通	労災	運動	一般	加害	自損	急病	その他				合計
											転院	医師	資器材	その他	
件数	44	1	22	328	97	45	1,563	20	109	7,828	1,243	0	0	66	11,366
割合	0.4%	0.0%	0.2%	2.9%	0.9%	0.4%	12.3%	0.2%	1.0%	69.4%	12.2%	0.0%	0.0%	0.6%	100%

表3 月別救急出動状況

月 区分	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	合 計
件 数	1,051	893	899	814	872	907	1,009	972	932	975	892	1,150	11,366
搬送人員	934	770	803	730	801	845	938	918	871	897	841	1,066	10,414

表 4 曜日別救急出動状況

曜日 区分	月曜日	火曜日	水曜日	木曜日	金曜日	土曜日	日曜日	合 計
日 数	53	53	52	52	52	52	52	366
件 数	1,812	1,632	1,585	1,574	1,666	1,543	1,554	11,366
1日平均	34.2	30.8	30.5	30.3	32.0	29.7	29.9	31.1

表 5 時間別救急出動状況と急病の状況

区分	0～2	2～4	4～6	6～8	8～10	10～12	12～14	14～16	16～18	18～20	20～22	22～24	合計
件数	493	417	463	831	1,447	1,495	1,335	1,181	1,198	1,031	857	618	11,366
急病	389	329	375	653	1,063	909	778	707	753	763	627	482	7,828

表 6 年齢別搬送人員状況

区 分	新生児	乳幼児	少年	18～29	30～39	40～49	50～59	60～64	65歳以上	合 計
人数	7	233	246	460	352	464	795	474	7,383	10,414
割合	0.1%	2.0%	2.4%	4.4%	3.4%	4.5%	7.6%	4.6%	70.9%	100%

* 年齢区分・・・新生児 → 生後 28 日未満の者

乳幼児 → 生後 28 日以上～7 歳未満の者

少 年 → 7 歳以上～18 歳未満の者

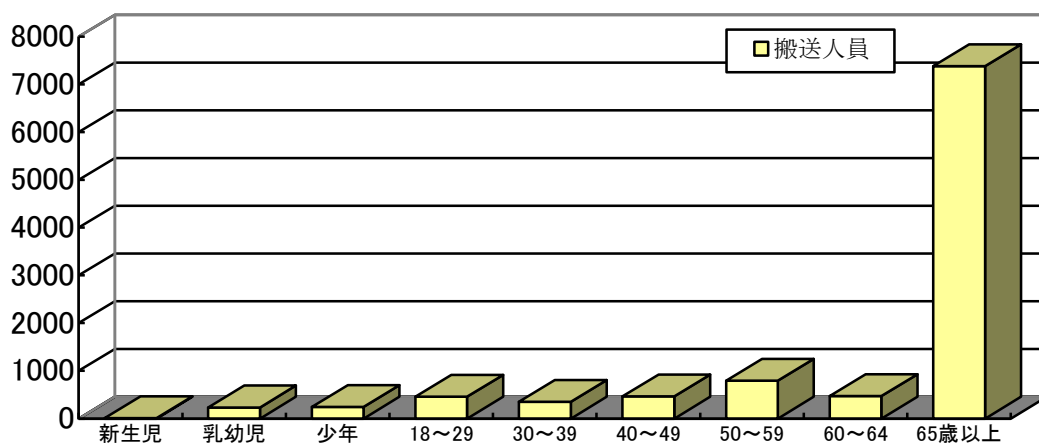


表 7 傷病程度別搬送人員状況

程 度	死 亡	重 症	中等症	軽 症	その他	合 計
搬送人員	227	832	5,582	3,773		10,414

※ 傷病程度区分

死 亡→初診時に死亡確認したもの

重 症→3週間以上の入院が必要なもの

中等症→入院が必要で重症に至らないもの

軽 症→入院を必要としないもの

その他→医師の診断が無いもの、医療機関以外へ搬送したもの

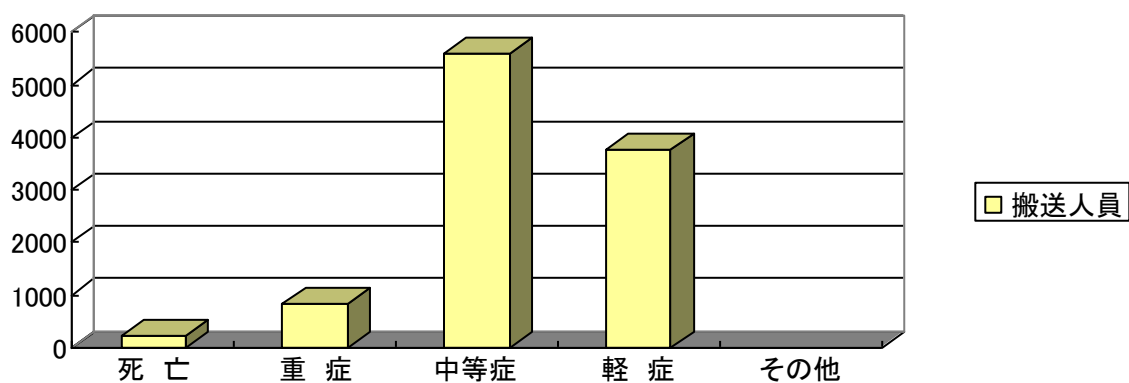


表 8 救急隊員が行った応急処置

応 急 処 置	件 数	応 急 処 置	件 数
止血・被覆	525	聴診	3,444
固定	279	血中酸素飽和度測定	10,189
人工呼吸のみ	46	心電図波形観察	5,289
心肺蘇生	250	除細動	21
酸素吸入	2,325	血糖測定	529
気道確保	357	器具を用いた気道確保（特定行為）	119
異物除去	3	静脈路確保（特定行為）	253
保温	49	薬剤投与（特定行為）	112
在宅療法継続	660	ブドウ糖投与（特定行為）	45
血圧測定	9,941	その他	10,333
合 計			44,769

表 9 救命講習実施状況

対 象 区 分		消防職員	消防団員	事業所	町内会	自主防 災組織	学校関係	団体 グループ	その他	合 計
上級救命講習	回数			1					2	3
	人員			7					19	26
普通救命講習	回数	1	1	8		7	7		21	45
	人員	14	12	58		93	74		202	453
一般救急講習	回数			97	4	2	107	2	10	222
	人員			1,249	83	2	3,189	45	211	4,779
救命入門コース	回数			3						3
	人員			24						24
普及員・指導員 養 成 講 習	回数	6							3	9
	人員	9							9	18
上級救命再講習	回数		1	4			1		5	11
	人員		1	17			1		5	24
普通救命再講習	回数		2	33		3	2		7	47
	人員		16	195		21	3		7	242
普及員再講習	回数		1					1	2	4
	人員		2					1	3	6
合 計	回数	7	5	146	4	12	117	3	50	344
	人員	23	31	1,550	83	116	3,267	46	456	5,572

表 10 過去 5 ヲ年の救命講習実施状況の推移

年 区分	令和2年	令和3年	令和4年	令和5年	令和6年
実施回数	135	201	259	376	344
受講者数	1,668	3,517	3,643	5,389	5,572

